



第121回日本皮膚科学会総会

2022年 6月 2日 木 11:15 ~ 12:15

会場 第9会場 (国立京都国際会館 1F Room C-2)

新ガイドラインに沿った アトピー性皮膚炎診療と バイオマーカー

座長

矢上 晶子 先生

藤田医科大学ばたね病院総合アレルギー科 教授

演者

中原 剛士 先生

九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野 教授

本ランチョンセミナーは整理券制です。

- 発券場所：国立京都国際会館 本館 1Fメインラウンジ
- 日時：6月2日（木）8：00～10：45（アプリ 9：00～10：45）
- ※発券は、定員になり次第終了いたします。
- ※整理券（弁当券）はセミナー開始5分後に無効となりますのでご注意ください。

共催

第121回日本皮膚科学会総会

株式会社 シンテスト

新ガイドラインに沿った アトピー性皮膚炎診療と バイオマーカー

九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野 教授

中原 剛士 先生

アトピー性皮膚炎（AD）診療ガイドラインが改訂され、診断治療アルゴリズムも大幅に変更された。ADの診療において、医師による皮疹の評価や患者による自己評価はもちろん重要であるが、時に診断時や治療時の客観的なバイオマーカー測定も必要である。ガイドラインにおいては、診断や重症度の参考になるバイオマーカーとして、血清IgE値、抹消血好酸球数、血清LDH値、血清TARC値、血清SCCA2値が記載されている。その中でも特にTARC、SCCA2は信頼性が高く、TARCは病勢評価に日常診療で広く利用され、SCCA2は正常とのカットオフ値が年齢によって異なる新しいバイオマーカーとして注目されている。そこで本講演では、ガイドラインの改訂のポイント、ガイドラインに記載されているADのバイオマーカーについて概説し、どのような時に測定すべきか、どのように活用すべきか、についてお話ししたい。